



日本SPF豚協会

だより | 2017. 10
No.69

私は野球少年でした。今思い返せば、基本練習に明け暮れていたのですが、これがきつく、面白くありませんでした。ところが、随分野球から遠ざかっているのに、たまにキャッチボールとかすると、基本動作ができていて我ながら驚きます。

野球評論家の野村克也氏は解説で「困ったときの外角低め」と何度も言っています。長打の可能性は低く、大げがはしないということでしょう。これを基本に配球すべきだと力説していました。キャッチボール（基本）ができないのにダブルプレー（応用）ができるはずがない、わけです。

では、養豚の基本とは何でしょうか。

農場を訪問する中で、豚がトラブルなくすくすくと育つにはどうすればよいのか、日々頭を抱えています。豚と会話できれば、ときえ真剣に思っています。

養豚を取り巻く環境（法規制、豚舎、飼養機材、育種、栄養管理など）は日々変化し、進歩しています。デンマークでは、1母豚当たり40頭を超えるような年間子豚離乳を実現しています。いわゆる多産系種豚です。しかし、多産系種豚も今までの種豚も同じ“豚”です。水も飲めば、エサも食べる。飼養管理の基本は、きれいな水を十分飲めるか、きれいなエサを十分食べられるか、きれいな空気、きれいな寝床で寝られるか、でしょう。中でも水が基本中の基本です。

数年前、ドライフィーディング農場で厳冬期に給水管が凍結、肥育豚に水が当たらなくなることがありました。それまでエサが当たらなくなることもありましたが、豚の反応はその時をはるかに超え「水くれオーラ」が半端ではなく、水がいかに重要か、再認識しました。

また、水を十分飲めないのを豚が諦めてしまっているのではと思うときもあります。エサ箱に水を入れてやると

提言

養豚の 基本とは？

日本SPF豚協会理事
ホクレン畜産生産部主任技師

こもろ さとる
小師 聡



ゴクゴク飲む。やはり諦めていたのだと確信します。

今から30年ほど前、いわゆる“ドブ飼い”（半土管の中にエサと水を入れる方式、今のリキッドフィーディングに近い!?)の農場がありましたが、1日に数回は確実に水もエサもあたる状況でした。しかし、現在は給水・給餌も自動化され、機械任せになっている面も否めません。飼養管理者の、豚への観察眼、異常に対する察知能力が、より求められると思います。

そこで皆さんに提案です。“水”をキーワードに、豚と今一度向き合ってみませんか？

ちょっと待てよ！水を十分飲める環境を豚に提供することは、巷で話題のアニマルウェルフェアの一つではないのか？古来、日本人は家畜と同じ家屋に住み、家族として暮らし、大事に、大事に飼ってきた歴史があります。“獣魂祭”“畜魂祭”など、命をいただく感謝と供養をしているし、食事の前は“いただきます”です。これこそ、アニマルウェルフェアの原点ではないでしょうか？日本人はずっと以前から取り組んできたとも言えるし、魂の根幹に染みついていると思うのです。海外から入ってきたアニマルウェルフェアという概念に加え、日本人の、豚に対する優しさがプラスされれば、世界最強のアニマルウェルフェアになるのではないのでしょうか。

H29年度SPF豚セミナー 海外SPF豚農場の設備紹介や 多産系母豚の栄養管理を テーマに講演

11月9日(木)
東京・KKRホテルにて開催

昨年のセミナーの様子



恒例となっております協会主催「SPF豚セミナー」。今年も11月9日(木)午後1時30分より、東京都千代田区のKKRホテル東京にて開催いたします。

会員の皆さんはもちろんどなたでもご参加いただけます。次ページの開催要項をご参照ください。

今年のメインは海外視察報告と講演です。

昨年のセミナーでの講演テーマ、養豚先進国・デンマークの養豚事情紹介は参加者の方々に大変好評でした。アンケートでも海外の情報をもっと知りたいという声が多くありました。そこで今年もひきつづき現地のSPF豚農場の現状をご紹介いただくこととしました。

講師は(株)シムコ海外事業推進室長の辻 博史氏です。何度も現地の農場を視察されて、豊富な経験をお持ちです。貴重な情報をご提供いただけることとなりました。

また、育種改良が進む中、多産系母豚の持つ能力、特長を最大限引き出す飼料、飼養管理に対し、大きな注目と関心が集まっています。そこでさまざまな母豚について実証試験や研究を行っている中部飼料(株)研究技術部課長、養豚グループリーダーで加茂牧場長でもある石川靖之氏にご講演いただきます。従来の協会セミナーにはない貴重なお話をうかがう

機会になるかと思えます。

例年同様生産成績優秀CM農場の表彰式も行います。回数を重ね、今回が11回目となります。先日選考委員会が開催され、「総合生産成績最優秀農場」、「商品化頭数最優秀農場」がそれぞれ決定いたしました。当日発表いたします。

選考委員会では表彰対象について、違う部門での表彰があってもいいのではとの意見もあり、今後検討していくこととなっています。

認定CM農場の生産成績年次報告も例年どおり行われます。またこの度認定農場にご協力いただき、ワクチン等薬品使用の実態調査を実施しました。分析結果を取りまとめ、報告する予定です。

セミナー終了後には懇親会も開催いたします。会員が一堂に会する貴重な情報交換の場としてご活用ください。毎年好評を博している認定農場産SPFポークのしゃぶしゃぶ、骨付きハム、ソーセージ・ハムなどの加工品も多数ご用意いたします。ぜひご賞味ください。

なお、参加費については昨年同様、会員と非会員で金額が異なりますのでご注意ください。

多くの方のお越しをお待ちしております。

平成29年度SPF豚セミナー開催要項

開催日時：平成 29 年 11 月 9 日 (木) 13:30 ~ 17:00

場 所：KKR HOTEL TOKYO (東京都千代田区大手町 1-4-1) <地図参照>

<プログラム>

- 開会のあいさつ 13:30 ~ 13:35
- ① CM認定農場生産成績年次報告 (2016) 13:35 ~ 14:05
藤田世秀・日本SPF豚協会専務理事
- ② 認定農場の薬品使用の実態について (案) 14:05 ~ 14:35
- ③ 生産成績優秀CM農場表彰式 14:35 ~ 15:00
(1) 選考結果報告・講評
(2) 総合生産成績最優秀農場表彰
(3) 商品化頭数最優秀農場表彰
- 休 憩 15:00 ~ 15:15
- ④ 現地報告
「40頭離乳を達成しているデンマークSPF豚農場の設備」(仮題)
辻 博史・(株)シムコ海外事業推進室長
..... 15:15 ~ 16:00
- ⑤ 講演
「多産系母豚の能力を引き出すための栄養管理」(仮題)
石川 靖之・中部飼料(株)研究技術部課長、養豚グループリーダー兼加茂牧場長
..... 16:00 ~ 17:00

閉会のあいさつ

●懇親会 17:30 ~ 19:30

<参加費>

会 員：セミナー無料、懇親会費 5,000 円

会員以外：10,000 円 (懇親会費含む)

<お申込み>同封の申込書にて下記までFAXでお申し込みください。

※協会会員と会員以外の方では参加費が異なりますのでご注意ください。

<申し込み期日> 11月2日(木)まで

※定員 (150 名) になり次第締め切らせていただきます。

<お申込み・お問い合わせ>

日本SPF豚協会

FAX.03-5835-5376

j.spf.a@nifty.com

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 1-8-2

ニューセンチュリービル7F TEL.03-5835-5375

KKR HOTEL TOKYO

<http://www.kkr-hotel-tokyo.gr.jp/000/access.html#station>



豚 インフルエンザは、A型インフルエンザウイルスの感染により引き起こされる豚の急性呼吸器疾患で、高熱・沈うつ・咳・鼻水等が主な症状です。豚インフルエンザウイルス (IAV-S) は、豚呼吸器病症候群の主たる原因ウイルスの一つだと考えられており、アイオワ州立大学獣医診断室の2000年の病性鑑定では、肺炎症状を呈した豚3,163頭の内、17%にあたる559頭でIAV-Sが検出されています¹⁾。Bennettらは豚インフルエンザによる肥育効率の低下がもたらす養豚業への経済的損失は、他の主要細菌に比べて高いと試算しており²⁾、イギリスでは、年間約90億円に上ると推定されています³⁾。その一方で、IAV-Sが農場内や農場間で維持される要因は、まだよく分かっていません。

私たちの研究チームは、2006年よりJ-GRID(感染症研究国際展開戦略プログラム)に参画してタイ・ベトナムでのIAV-Sの疫学研究を実施しています。2009年から2010年にタイの農場でアクティブサーベイランス(疾病の通報によらない積極的な調査)を行い、呼吸器症状を示さない豚からもIAV-Sが分離されることを見だし、離乳直後から肥育前期の豚で不顕性感染が起こりやすいことを明らかにしました⁴⁾。それまでのIAV-Sの調査では、パッシブサーベイランスと呼ばれる疾病の通報に伴う検査が多く、IAV-Sの不顕性感染についてはあまり情報がありませんでした。さらに2012年には、タイの一農場で不顕性感染した1頭の豚から色々な遺伝子分節の組み合わせをもったウイルス(遺伝子再集合ウイルス)が産生されていることを見だしました⁵⁾。

不顕性感染がどのような農場で起こりやすいかを調べるために、2010年からはアジアで中国に次ぐ第2位の豚生産国であるベトナムでの調査を開始しました。ベトナムでは、裏庭農場から規模の大きい会社経営農場まで多彩な経営形態で養豚業が営まれていることから、この特性を活かしてIAV-Sが不顕性感染様式で維持される農場側の要因を調べ

ました。2013年12月までに250農場を訪問して、臨床的に健康な豚から採取した鼻腔拭い液7,034検体からのウイルス分離を試みました。農場訪問時には、各農場の経営形態、飼養頭数、豚導入記録などの疫学関連情報を収集しました。その結果、250農場の約9%にあたる22農場でIAV-Sが分離されました。IAV-Sが分離された22農場と分離されない228農場の間で疫学情報の統計学的な比較を行ったところ、1,000頭以上の豚を有する農場で、IAV-Sの不顕性感染が起こりやすいことがわかりました(表1)⁶⁾。さらに、規模の大きい農場では、多彩な遺伝子再集合ウイルスが分離されやすいことがわかりました。

IAV-Sの不顕性感染は、大規模な養豚業が行われている各国で共通の問題であり、日本も例外ではありません。実際、私たちのチームでは2015年より国内でのIAV-Sのアクティブサーベイランスを強化したところ、これまでに調査した36農場中13農場でIAV-Sが分離されています。また、IAV-Sの不顕性感染が起こっている農場では肥育期間が長くなることも報告されており⁷⁾、国内でのIAV-Sによる経済的損失はこれまで考えられているよりも更に大きなものである可能性があります。

IAV-Sの感染の連鎖による経済的損失の低減や、遺伝子再集合による新しい遺伝型のインフルエンザウイルス出現のリスクを低減するためには、豚から豚への感染連鎖を断ち切るための工夫や、呼吸器症状を呈している従業員を豚舎での作業に従事させないようにすることでヒトから豚への感染を防ぐなどの衛生管理の徹底が必要です。

これからの私たちの研究の目標は、規模の大きい農場でどのようにIAV-Sが維持されているかを明らかにしたり、国内における市販ワクチン効果などを明らかにすることで、豚から豚への感染連鎖を断ち切る方法を提供することです。

**ブタの
ウイルス病**

連載 **No.14**

養豚場の大規模化と 豚インフルエンザウイルス



農研機構 動物衛生研究部門 越境性感染症研究領域
主任研究員 竹前喜洋、領域長 西藤岳彦

表1 IAV-Sの不顕性感染に与える農場側の要因

単変量解析	オッズ比	P値
大規模集約農場>家族経営農場	16.83	<0.001
1,000頭以上>50頭以下	20.57	<0.001
ロジスティック回帰分析		
1,000頭以上>999頭以下	25.54	<0.001

Takemae N. et al., 2015 より一部抜粋

参考文献

- 1) Harms PA, et al. (2002) J Swine Health Prod. 10(1):27-30.
- 2) Bennett R. and Ijpelaar J. (2005) J Agr Econ.56(1),135-144.
- 3) FAO. www.fao.org/3/a-ak061e.pdf
- 4) Takemae N. et al. (2011) Virol J. 14;8:537.
- 5) Abe H. et al. (2015) Virology 484:203-212
- 6) Takemae N. et al. (2016) BMC Vet Res. 12:227
- 7) Er C. et al. (2014) BMC Vet Res. 10:284.

これまでネズミの出没を知る手立てとしてトレイルカメラの利用をご紹介してきました。しかし、トレイルカメラは1台数万円であり、設置台数には限りがあります。これ以外の方法でネズミの出没を知るためには、痕跡の一つである糞があります。定期的に糞数を数えることによって出没場所や増減の傾向を知ることができます。しかし、糞は小さく、畜舎内を限なく探すことは大変な作業です。また短期間で一気に増えるわけでもないので調べるには根気がいります。

そこで別の方法として、餌の消費による生息状況調査をご紹介します。

まず少量の配合飼料を畜舎の様々な環境に置いていきます。一定期間の消費量を調べることでネズミがよく出没する場所を知ることができます。餌の消費量が多い場所ほどネズミの行動圏の中心に近いと言えます。

ある程度、ネズミの高頻度に出没する場所が判明したら、その場所の環境を調べます。例えば、物などが多く、営巢しやすい環境が整っていないか、ネズミの移動経路となる隙間がないか、餌の漏えいがないかなど、他の場所とは違う特徴を調べます。その特徴がネズミを増やしている原因かもしれません。一時的に効果を上げてその環境を改善しない限り、また侵入を許し、増加してしまいます。畜舎ごとの特徴を整理し、従業員同士で情報を共有します。これまで気づかなかったネズミの好適な環境を発見できるかもしれません。

よく出没する場所を見つけた後、あまり消費されない(出没しない)場所の餌は撤去し、出没する場所のみに撒き餌を絞っていきます。おそらく同じ畜舎内でも複数個所で好適

な場所が見つかるかと思います。動物は餌に執着して通う傾向にあるので、よく出没する場所をよりよい餌場とすることでさらに個体を集中させます(図1)。その際、餌をバットなどに入れるなどして、消費重量を測定しておきます。よい場所が複数個所あれば、消費量を比較すること好適な環境間の比較ができます。

また、場所が絞られたことでより効率よくトレイルカメラを設置して、出没状況を知るのもよいでしょう。画像からネズミの大きさや尻尾の形状などによって個体を識別できることもあります。

一定の期間、採餌を行うことでその餌場への依存度を高めます。その後、エンドックスやライラットFなどの殺鼠剤を混ぜることで効果的にネズミを駆除することが可能です。殺鼠剤を用いることが困難な場合は、わなを用いて捕獲します。わなは、複数のネズミが一度に捕獲できるタイプのものがよいでしょう。餌付け期間が長すぎるとネズミの栄養状態がよくなり、妊娠率や産仔数が増加するので注意が必要です。

最後に、殺鼠剤やわなにより駆除できた後に同じ場所で餌の消費重量を測定します。駆除前と同期間の消費量を比較することにより、捕獲の効果を検証できます。駆除後の餌の消費がほとんどなければ、駆除率は高かったことを示します。あとは環境改善を行うことで新たな増加を抑制します。



図1. 餌に集まるネズミ

豚舎の害獣対策・害虫対策・ 消毒などのポイント **21**

ネズミ対策 ～誘引と駆除～

岐阜大学応用生物科学部 准教授

森部 絢嗣

協会からのお知らせ

今年もちくさんフードフェアに出展します 10月7日(土)、8日(日)

毎年10月に開催されている公益財団法人日本食肉流通センター主催「ちくさんフードフェア」。今年も10月7日(土)、8日(日)に神奈川県川崎市、日本食肉流通センター敷地内で行われます。「川崎みなと祭り」と合わせて開催されるこのイベント、昨年は残念ながら2日間ともあいにくの雨となり、来場者は例年を下回りましたが、毎年13万人近くの方が訪れます。協会は今年も出展いたします。7年連続8回目となります。パネル展示、認定農場産SPFポークのしゃぶしゃぶ試食、アンケート調査、SPFポーク加工品の当たる抽選会などを実施します。しゃぶしゃぶは毎年大好評で、昨年も悪天候にもかかわらずブース前に長い列ができました。準備した肉はすべてご試食いただ

き、アンケートも予定数を達成することができました。入場は無料です。お誘いあわせの上、ご来場いただき、協会ブースにお立ち寄りください。お待ちしております。



日時 :10月7日(土)、8日(日) 10:00 ~ 16:00

場所 :(公財) 日本食肉流通センター 神奈川県川崎市川崎区東扇島 24

TEL.044-266-1172

http://www.jmtc.or.jp/event/pdf/fear_poster2017.pdf

交通機関のご案内

- JR川崎駅東口・京急川崎駅より会場直行無料バスが出ます(市営バス11番のりばより随時運行)
- 川崎市街から車で約30分(国道132号線、海底トンネル)、首都高速湾岸線東扇島出口から約8分、無料駐車場完備

●認定委員の交代

サンエスブリーディングピラミッドの認定委員が名越仁宣氏より下山安氏に、また、ホクレンピラミッドの認定委員が渡辺卓俊氏から斎野仁氏にそれぞれ交代いたしました。

●子ども食堂へのご協力、ありがとうございます

昨年来、千葉県内の認定農場各位にお願いしている「市川子ども食堂」への豚肉提供、引き続きご協力をいただいております。また、この度日本農産工業ピラミッドのご紹介で、関連会社による卵のご提供もいただきました。今後とも息

の長いご協力をお願いいたします。

●誌面刷新しました!

2000年10月、協会だよりが誕生してから丸17年、今号から18年目に入りました。これを機に、制作経費も含めた見直しを図り、誌面をリニューアルいたしました。いかがでしょうか。皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。これからも読者の皆様にとって読みやすくなる情報誌としてご愛読いただける「たより」をめざします。ご協力のほどよろしくお願いたします。

プロのシェフおすすめ、カンタン、おいしいSPFポークレシピ



SPFポークのバルサミコ酢豚

●レシピ提供・HERB & COOKINGROOM KINA

ハーブスペシャリスト **大澄かほる** (北海道札幌市)

中華料理でおなじみの酢豚ですが、今回はバルサミコ酢を使った「ちょっとおしゃれな酢豚」をご紹介します。SPFポークの脂のおいしさと、バルサミコ酢の香りとコクが相性ぴったりです。ぜひお試しを。

●材料 ● (2人分)

SPF豚こま切れ肉 200g
 しょうゆ 小さじ2分の1
 酒 小さじ2分の1
 ブレンド粉(薄力粉1:片栗粉1) 大さじ2分の1
 玉ねぎ 2分の1個
 パプリカ 黄 6分の1個
 パプリカ 赤 6分の1個
 ピーマン 1個
 エリンギ 60g
 サラダ油 適宜

A (バルサミコソース)

バルサミコ酢 大さじ2
 しょうゆ 大さじ1
 みりん 大さじ1
 砂糖 小さじ1 (バルサミコ酢の甘みにより調整)
 片栗粉 大さじ2分の1

●つくり方 ●

- ①豚肉は30g~40gくらいのやや大きめにカットし、しょうゆ、酒で下味をつけブレンド粉をまぶして水気を切っておきます。
- ②パプリカ、ピーマン、エリンギ、玉ねぎは乱切りします。
- ③Aの材料を鍋に入れ、沸騰後とろみがつくまで、弱火から中火で加熱します。
- ④油を180℃に熱し、パプリカ、エリンギ、玉ねぎと①を揚げます。
- ⑤フライパンに④とピーマンを入れ、③を加えながら加熱します。ソースがなじんだら出来上がりです。

[大澄シェフからのアドバイス]

材料を1点ずつ炒めるのではなく出来上がっているソースをからめることで手順を簡略化できます。肉の脂のうまみを味わうためにソースの味がやや濃いめになっていますが、肉を大きめに切ることで全体のバランスが取れます。

認定情報

●平成29年度認定農場

[9月認定] (有効期間:平成29年9月7日から30年9月末日まで)

北海道・ササキSPFファーム、(有)山中畜産長沼農場、(有)浅野農場、岩手県(有)ケイアイファーム北上農場、(農)八幡平ファーム、**秋田県**・全農畜産サービス(株)秋田SPF豚センター、(有)ファームランド、(株)ナカシヨク八竜繁殖農場、同大口繁殖農場、同能代離乳農場、(有)ポークランド第二農場、**山形県**・(株)ナカシヨク庄内繁殖農場、同庄内肥育農場、同鶴岡肥育農場、**茨城県**・常陽発酵農法牧場(株)、(有)米川養豚場、オヌマファーム、山本ファーム鹿嶋、**栃木県**・サンエス大渡農場、(有)K&Tコーポレーション、**群馬県**・(有)ほそや、**長野県**・長野県農協直販(株)SPF種豚センター、(有)岩垂原エスピーエフ農場、(有)クリーンポーク豊丘農場、(農)エスピーエフこがねや第一農場、**千葉県**・岡野茂樹養豚場、(有)東海ファーム倉橋本農場、同猿田農場、同第2肥育農場、同第1肥育農場、(有)菅井物産飯岡S

PF農場、(有)下山農場第1農場、同飯岡農場、**新潟県**・(株)ナカシヨク荒川繁殖農場、同中条離乳農場、同下田肥育農場、同長峰肥育農場、同上中山肥育農場、**岡山県**・岡山JA畜産(株)梶山農場、**鳥取県**・(株)西日本ジェイエイ畜産矢下繁殖農場、同上馬場肥育農場、**香川県**・(株)七星食品多和ファーム、**愛媛県**・全農畜産サービス(株)愛媛SPF豚センター、**長崎県**・(有)大西海ファーム中浦肥育農場、同七釜肥育農場、**大分県**・(有)九重ファーム、同第2農場、**宮崎県**・(株)ファームテックえびの種豚場、(株)ナンチクファーム守山北郷農場、**鹿児島県**・(株)シムコ鶴田事業所、(株)ファームテック大口農場、(有)新留養豚、同第二農場、鹿児島いずみ畜産(株)江内農場、そお元気(株)ファーム野方農場、高山大規模実験農場生産農場、同肥育農場 (以上57農場)

※次回認定委員会は平成29年12月7日(木)の予定



(農) 八幡平ファーム (農) 八幡平洋野牧場
阿部 正樹さん
 (秋田県鹿角市、農場所在地・岩手県洋野町)



阿部正樹さん、麗さんご夫妻

父が遺してくれた心強い仲間とともに 魅力あふれる職場となる養豚場を目指して

「阿部日出夫にはなれないので」と正樹さん。阿部日出夫さんとは、秋田・岩手両県にまたがる、SPF豚認定2農場含めた4法人7農場、母豚5,000頭規模の八幡平養豚グループを一代でつくり上げ、そのカリスマ性と人柄で多くの人を魅了し尊敬を集めた方です。残念ながら今年2月急逝されました(享年75歳)。

正樹さんは日出夫さんの長男、幼少時より後継者として周囲に期待される中、「なぜ(臭気問題等で)周りによく思われない仕事をしているのか?」と養豚に対するネガティブな気持ちがあったそうです。転機は海外研修でした。大学卒業後就職した種豚会社を退職、オランダの農場へ。ホームステイ先をはじめ「みんな誇りを持って働いている姿に、いやなところしか見えてなかった自分に気がきました。初めて楽しい養豚を自分の手で広めたいと思えたんです」。帰国して復職、1年後家に戻りました。

農場勤務を経て取り組んだのが、豚肉販売部門の立ち上げ。きっかけは「八幡平ポークってどこで買えるの?」という周囲の声でした。期待に応えようと通販から直売所設立と徐々に事業を拡大し、今では秋田・青森両県で直売店4店舗を含む8店舗での販売を手がけるまでに。

4年前に副組合長に、3年前にグループ代表である組合長に就任してからは、会長となった日出夫さんと一緒に行動

することが多くなったと言います。会長亡き今、その経験が冒頭のひとことにつながります。「会長が心強い仲間をつくって遺してくれた。だから私は楽ができます。ラッキーですよ(笑)」との言葉に、事業を継ぐ者として自らを客観視する冷静さと、度量の大きさを感じました。

大の車好きという正樹さん、卒業後もOBとして母校の自動車部によく顔を出していたとか。奥様の麗^{うらら}さんはその後輩で東京出身。「阿部先輩は有名で、この人のお嫁さんは大変だろうなあと思ってました。まさか自分になるとは(笑)」。卒業1年後に結婚。畜産学科で動物好きとはいえ、東北の養豚家に嫁ぐ不安は?「まったくありませんでした。義父母もすごく喜んでくれて」とにっこり。ほがらかで素直なお人柄が伝わりました。旧姓も阿部だそうで、まさに「ご縁」でしょうか。

高校2年生と小学6年生の2人の娘さんには「好きな道に進んでほしい。ただ(娘が)将来の選択肢の一つとして考えられる、ぜひ就職したいと思える会社、地元で愛される会社でありたいですね」と正樹さん。

スタッフ総勢100名、現在3つ目のSPF豚農場も新設中と、活力と魅力、そして笑顔があふれる八幡平グループ、今後はますます楽しみになりました。(編集部)

編集後記

陸上男子100m、桐生選手の日本人初の9秒台、すごい一言。親父さんの「くさらずによく頑張った。これからもこれに甘えことなくやるでしょう」の言葉がいいですね。

プロ野球界でも今シーズン途中で2000本安打を達成した選手が4人。人知れずの努力を重ねた結果報われた一握りですが、これからは真価を問われるのでしょうか。今、養豚業界も未曾有の高相場が続き、低い豚価で悪戦苦闘していたのがウソのようです。奢ることなく、地道な、いつもと変わらぬ行動を心がけるべきかもしれません。(世)



日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは
日本SPF豚協会の
 登録商標です

日本SPF豚協会だより

第69号 2017年10月1日発行(季刊)
 発行 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2
 TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376
 e-mail:j.spf.a@nifty.com
 http://www.j-spf.com/
 発行人 北島 克好
 編集人 藤田 世秀